

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行下での 医学生のストレス知覚に関する研究

COVID-19流行は、医療者だけでなく医学生にも多大なる影響を与えたことがわかっています。本研究は、2020年の9月から10月にかけて実施した横断研究です。岡山大学医学部の全学生に質問紙調査を行い、717名中211名（29.4%）から有効な回答が得られました。

コロナ禍で22.3%の医学生は、1週間対面で誰ともコミュニケーションをとっていないという事実が明らかになりました。

・オンラインでなく、対面コミュニケーションをとった人数とコミュニケーション時間が知覚ストレスの低減に関連していました。

・サブグループ分析では、一人でいることを好む学生グループにおいても、対面でのコミュニケーション人数とコミュニケーションの長さは、ストレス軽減と有意な関連を有していました。

・結論として、オンラインコミュニケーションよりも対面コミュニケーションは、知覚ストレスの低減と関連していました。

1週間あたりに岡山大学医学部の医学生が コミュニケーションをとった人数 (%)

